

黙示録 20 章 7 節-11 節 スタディーガイド

千年王国（メシア王国）で神殿が再建されます。ソロモンの神殿（第一神殿）に現れたシャカイナグローリーは、エゼキエル書 9 章から 11 章に書かれているように東の門から去っていかれました。

神様の栄光が去った後、バビロンが神殿を破壊しました。そして、ダビデ王朝に終止符が打たれました。

この時から「異邦人の時」が始まり、イエス・キリストが到来されました。異邦人の時が終わるのは、ご再臨の時です。ご再臨の後、再びダビデが王となり、神殿も再建されます。

★ エゼキエル書 43 章 1 節-2 節

彼は私を東向きの門に連れて行った。すると、イスラエルの神の栄光が東のほうから現れた。その音は大水のとどろきのものであって、地はその栄光で輝いた。

バビロンが BC605 年と BC597 年に襲来しましたが、神殿は破壊しませんでした。しかし、シャカイナグローリーが神殿から去っていかれた後、BC586 年に破壊されました。

バビロンから戻って再建した第二神殿には、シャカイナグローリーは戻りませんでした。現在、第三神殿が間もなく建つといううわさが流れていますが、第三神殿は反キリストが世界を納得させて建てる神殿であると考えられます。

千年王国で建てられる神殿は、主によって建てられます。そしてシャカイナグローリーが戻ってこられます。

★ エゼキエル書 44 章 1 節-2 節

彼が私を聖所の東向きの外の門に連れ戻ると、門は閉じていた。主は私に仰せられた。「この門は閉じたままにしておけ。あけてはならない。だれもここから入ってはならない。イスラエルの神、主がここから入られたからだ。これは閉じたままにしておかなければならない。」

2 節「この門は閉じたままにしておけ。あけてはならない。」
去っていかれた同じ東の門から、シャカイナグローリーが入ってこられます。

そして、シャカイナグローリーは再び去ってはいかれないということを象徴して、東の門は閉じられます。

世界中から主を求めて、人々が捧げ物を携えてエルサレムに上ってくる様子が浮かびます。エゼキエル書では、千年王国でいけにえが捧げられています。

千年王国では、ほとんどの人々が死を経験しません。罪のない神様ご自身が罪を背負って死なれたことは、メシア王国の人々には理解しがたいことです。

罪を犯したものが、いけにえを捧げ、動物の死を通してイエス・キリストのあがないの尊さを知るのです。現在は死亡率 100%の時代ですから、聖餐式だけで十分に理解することができます。

★ 黙示録 20 章 7 節-10 節

しかし千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され、地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海べの砂のようである。彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。

7 節「千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され」

千年王国で生まれて、まだ神様を信じていない人々が試されるためです。

8 節「地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。」

千年間、閉じ込められていたサタンは、それまで以上の勢いで諸国の民を惑わします。

ここに書かれている「ゴグとマゴグ」は、エゼキエル書 38 章の「マゴグのゴグ」とは違います。マゴグはカスピ海と黒海の間にある国です。

サタンが千年王国の最後に諸国の民を召集する場所が、同じ場所かもしれません。

8 節「彼らの数は海べの砂のようである。」

無数の人々が、神様の敵側に付きます。

千年間サタンの誘惑なしで、真の平和を経験しましたが、100 歳未満の人々だと考えられません。

9 節「彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。」

聖徒たちの陣営は、エルサレムであると考えられます。

イザヤ書 2 章 2 節-3 節「終わりの日に、主の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、すべての国々がそこに流れて来る。多くの民が来て言う。『さあ、主の山、ヤコブの神の家の上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてください。私たちはその小道を歩もう。』それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから主のことばが出るからだ。」

今のエルサレムと千年王国のエルサレムは、随分、地形が違います。

現在、エルサレムのモリヤの山は、オリーブ山よりもヘブロン(ヘブロン)の山よりも低いです。
「主の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち」との記述は、モリヤの山が一番高くなることを表す預言です。

黙示録 16 章 18 節「すると、いなずまと声と雷鳴があり、大きな地震があった。この地震は人間が地上に住んで以来、かつてなかったほどのもので、それほど大きな、強い地震であった。」

最後の災難である第七の鉢の災難の、この時に地形が変わったと考えられます。

エゼキエル書 42 章によると、神殿の敷地は約 1.6 キロ平方メートルです。
広々とした神殿とその周りのエルサレムが、聖徒たちの陣営となっていると考えられます。
サタンとサタンに付く者たちが、そこを襲います。

黙示録 20 章 9 節「すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。」

戦いはありません。襲って来ると同時に神様が戦われ、彼らは焼き尽くされます。

10 節「彼らを感わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。」

これは最後の場所で、再び解放されることはありません。

10 節「そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。」

獣である反キリストも偽預言者も、千年早く「火と硫黄との池」に放り込まれています
(黙示録 19:20)。

こうしてサタンの最後の仕事が終わりに、永遠に閉じ込められます。
人間の世界で神様に反抗する者も、霊の世界で人間を感わす者もいなくなりました。

★ 黙示録 20 章 11 節

また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。

「地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。」
神様のご臨在なされる白い御座以外は、すべて無くなっています。

これは天国と地球が無くなったのではありません。神様に逆らう者がいた地球は無くなり、天も地も新しく清められた状態になっていると考えられます。